

平城宮東方官衙地区の調査(平城第621次)

平城宮内には、内裏や大極殿、朝堂院等とともに、行政の実務をおこなう官衙(=役所)が設置されました。第二次大極殿・東区朝堂院の東側、東院地区との間にまとまって配置された官衙群を東方官衙と呼んでいます。

奈良文化財研究所では、東方官衙地区の様相把握のため、継続的な発掘調査をおこなってきました。昨年度の第615次調査では、官衙域の建物としては特別に大きい基壇建物SB19000を確認し、太政官の弁官曹司と推定しました。これにより大型基壇建物が位置する区画の重要性が高まりました。そこで今年度は、築地塀による区画、石組暗渠や平城宮の基幹排水路SD2700を利用した排水網など、当該区画の使用の実態を、一体的に把握することを主たる目的として、第615次調査区の西側に調査区を設けました。

調査の結果、大型基壇建物が建つ区画の基幹排水路東岸部では、石組と木樋という構造の異なる2本の暗渠を設け、区画内から南北築地塀SC11510をくぐり基幹排水路へ流していたことがわかりました。基幹排水路の西岸部でも木樋や瓦樋を繰り返し設けていることを確認しましたが、西岸部は東岸部に比べ相対的に簡素です。

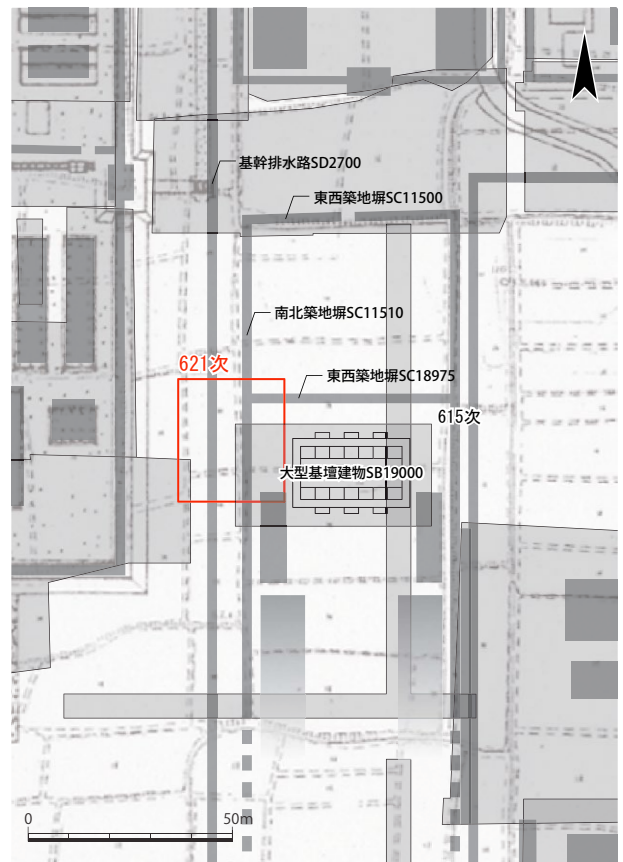
大型基壇建物が位置する東岸部に、より重厚で入念な排水施設を設けている様子があきらかになりましたが、とりわけ石組暗渠は、大型の石材を用いた構造で平城宮でも類例の少ない施設です。これによって大型基壇建物を有する区画の重要性を改めて認識することができました。

また、今回検出した東西築地塀SC18975の位置は、東方官衙地区の北を画する東西築地塀SC11500から

南に約44.3m(150尺)で、第406次調査の成果を裏付けるとともに、大型基壇建物を囲う区画の北限を確定することができました。

基幹排水路からは多くの遺物が出土しました。これらは東方官衙地区の活動や性格を知るうえで基礎的な資料です。今後の整理・検討を精力的に続けていきます。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため現地説明会はおこなわず、YouTube「なぶんけんチャンネル」にて調査の成果を紹介しています。ぜひご覧ください。(都城発掘調査部 大澤 正吾)



平城第621次調査区(赤)とその周辺



調査区全景(北から)



木樋暗渠(北)と石組暗渠(南)(西から)